

科目名称	動物リハビリテーション学
授業コード	BC307
英語名称	Animal Rehabilitation
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	川村 和美
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	病気や外傷によって身体的な障害が起こると、本来自然に行われている家庭での生活や日常活動が制約されるようになる。このような障害のある動物に対して、残された機能や能力を最大限に回復させ、または新たな能力を開発し、本来の日常行動を回復させて動物の自然な生活への復帰を目指して行われる一連の働きかけであるリハビリテーションについて実例を紹介しながら講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	動物病院での臨床経験を生かし、愛玩動物看護師として覚えておくべき動物リハビリテーションに関する知識について講義する。
到達目標	この講義では、学科及び大学のディプロマポリシーにのっとり動物が日常生活で起こるさまざまな事象・問題を科学的な視点から見つめ、理解して問題解決にとりくめる能力を修得することを目指す。具体的には、障害を受ける側の身体構造と機能、障害を与える原因、障害の症状、そしてリハビリテーションの種類、障害と適応法およびその効果について理解することを目指す。また、動物病院の現場での実践に活かす知識を身につけられるようにすることを目的とする。
計画・内容	1) 動物リハビリテーション概論、動物の運動器の形態と機能（骨・関節） 2) 跛行診断および整形外科的診断 3) 神経学的診断法および治療効果の評価と歩様分析 4) 理学療法の分類と適応 5) 関節の可動域運動とストレッチ 6) マッサージ、温熱・冷却療法 7) エクササイズ療法、水中療法、低出力レベルレーザー療法 8) 超音波療法、電気療法 9) 飼育環境整備と飼い主との協力体制 10) 整形外科的疾患に対するリハビリテーション（大腿骨頭切除後 他） 11) 整形外科的疾患に対するリハビリテーション（断脚術後 他） 12) 神経学的疾患に対するリハビリテーション（椎間板ヘルニア） 13) 神経学的疾患に対するリハビリテーション（その他の神経疾患） 14) 肥満動物、高齢動物に対するリハビリテーション 15) まとめ、理解度の確認
授業の進め方	授業形式：パワーポイントを基にして適宜映像資料など活用する。 講義の内容は前後することがある
能動的な学びの実施	講義内での質疑や意見収集も随時行う予定のため、積極的な授業態度を期待する。
授業時間外の学修	予習：骨格や筋肉といった体の構成をはじめ各種疾患に関する知識、飼い主教育など基本的な知識が必要です。このことについて理解をしておくこと。 復習：講義中のノートをまとめ、さらなる理解を深めること。 （合計60時間程度）

教科書・参考書	教科書：特になし 参考書： ・ 小動物のリハビリテーション入門、インターズー(株)、東京、2015年 ・ 犬のリハビリテーション、同上、2007年 ・ リハビリテーションと理学療法、同上、2006年 ・ 犬のホリスティックマッサージ、同上、2007年 ・ 犬と猫のリハビリテーション 実践テクニック、同上、2010年 など
成績評価方法と基準	講義での受講態度や積極性（10％）と確認テストや定期試験（90％）により総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	学生からのコメントや質疑などをもとに、授業への反映や資料配布等を行う。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	動物医療にかかわる者として豊富な知識を基に正しい技術を習得する必要があり、講義への出席と自発的な学習は不可欠です。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 授業動画配信または資料配布によるオンデマンド授業と適宜Zoomを用いたリアルタイム授業を組み合わせで実施する。 成績評価方法と基準 出席は資料のダウンロードによる判断とする。 授業への取り組み態度は課題の提出状況で判断し、提出された課題の内容に対する評価、出席状況を合わせ、総合的に評価する。